



総合社会学部

2012

履修要項

総合社会学部履修要項

平成24年度入学生用

はじめに

総合社会学部では、視点の異なる学問分野を連携させ教育の土台に据えることで、現代の社会が直面する複雑化した問題を多面的・多角的に理解することができ、多様な見方を総合化していく力の養成をめざします。また、語学教育や国際関係科目を充実させることにより、国際舞台でも活躍できるグローバルな視点を持つ力の養成をめざします。そのような理念のもとに、総合社会学部の教育課程として、「共通教養科目」、「外国語科目」と本学部独自の「学部共通コア科目」を用意し、本学部教育の土台を形成しています。その土台の上に、各専攻は「専門科目」を基礎から発展へと系統的に編成することによって教育課程の体系性を確保しています。

- ・「共通教養科目」は、1年次必修科目の「基礎ゼミ」を起点としたもので、幅広い知識と社会人としての基礎力の育成をめざしていきます。
- ・「外国語科目」では、コミュニケーション能力の育成とともにグローバルな視点を養成していきます。
- ・「学部共通コア科目」では、どの専攻に所属しようとも必ず受講すべき科目を用意しており、これらの科目では、学際的な学部としての総合的・実証的な視点を養います。このコア科目は、人々の心的活動や行動（心理）・社会システム（社会）・自然と社会の関係（環境）といった、ミクロな視点からマクロな視点までを網羅した各専攻の専門科目の基盤となる科目群です。
- ・「専門科目」が各専攻に配列されており、これは学部教育の土台と接続した教育の柱となるものです。社会・マスメディア系専攻と環境系専攻では「専攻共通科目」から「専門発展科目」へと、心理系専攻では「専門基礎科目」から「専門発展科目」へと体系的な教育課程を編成しています。

さらに、「専門基礎演習」（「学部共通コア科目」の中の一つ）、各専攻に分かれての「講読」、「演習」、「卒業論文」「卒業制作」といった、少人数ゼミナール形式の科目（必修科目）を4年間一貫して用意し教育を行います。

履修要項について

本履修要項では、総合社会学部に入学した皆さんが進級・卒業、そして学生生活を送るうえで、重要な事項について記しています。

履修要項は再発行しませんので、卒業まで大切に保管してください。

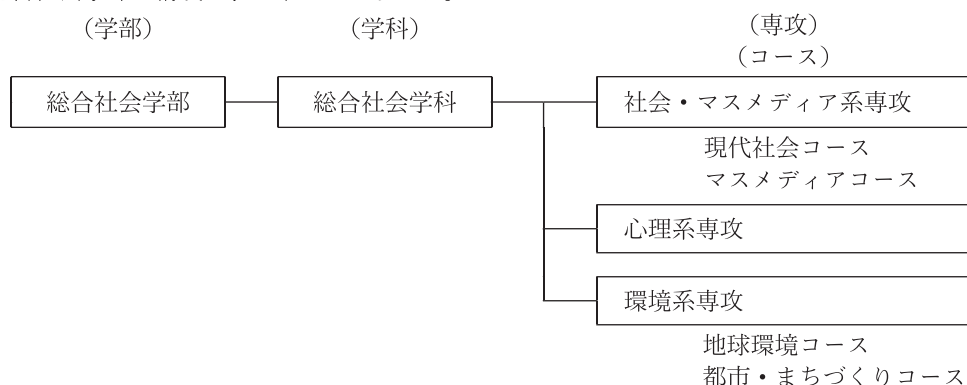
目 次

はじめに	
1. 総合社会学部構成	1
2. 学期および授業時間	1
学期	1
授業時間	1
3. 教育課程	1
学年制	1
科目	1
必修科目・選択科目	2
4. 単位制、キャップ (CAP) 制、グレード・ポイント・アベレージ (GPA) 制度	2
単位の考え方	2
キャップ (CAP) 制	2
グレード・ポイント・アベレージ (GPA) 制度	3
グレード・ポイント・アベレージ (GPA) 制度に基づいた履修取り下げ	3
5. 進級および卒業に関わる要件・カリキュラム表	3
進級要件	3
コース選択 (社会・マスメディア系専攻、環境系専攻)	4
卒業要件	4
カリキュラム表	6
6. 科目の履修	12
学年配当制	12
履修登録と履修計画	12
通常履修・再履修	12
7. 試験区分	12
定期試験	12
臨時試験	12
追試験	13
再試験	13
8. 受験の心得	13
試験	13
受験資格	13
不正行為等	13
9. 成績評価、成績通知、成績照会、学長賞・学部長賞	13
成績評価	13
成績通知	14
成績照会	14
学長賞・学部長賞	14
10. 特待生制度	14

11. 掲示、休講、補講、欠席	14
掲示	14
気象警報および交通機関のストライキなどによる休講措置	14
補講	15
欠席	15
12. 定期健康診断	15
13. オフィスアワー、アセンブリーアワー、履修相談、授業評価アンケート	16
オフィスアワー	16
アセンブリーアワー	16
履修相談	16
授業評価アンケート	16
14. インターンシップ、ボランティア活動	16
15. 資格関係	16
教職課程	16
司書課程	16
社会調査士	17
産業カウンセラー受験資格	17
認定心理士	18
環境マネジメント実務士	19
上級環境マネジメント実務士	20
GIS学術士	20
16. 海外留学・語学研修	21
17. 学籍番号	21
18. 各種届出等	21
住所・氏名等変更届	21
休学・復学	21
除籍・復籍・処分	21
退学・再入学	21
19. 転専攻・転学部試験	22
20. 転コース試験	22
校舎・講義室等の配置図	

1. 総合社会学部構成

総合社会学部の構成は、以下のとおりです。



2. 学期および授業時間

* 学期

「学期」は、「前期」と「後期」の二期に分かれています。

第1学年	前期	後期
第2学年	前期	後期
第3学年	前期	後期
第4学年	前期	後期

一部を除いたほとんどの科目は、前期または後期の半年間履修することによって完結します。ただし、前期・後期の授業開始日および終了日は毎年変わるので、「総合社会学部掲示板」などで連絡します。

* 授業時間

授業は原則として年間を通じ第1時限から第5時限まで開講されます。ただし、教職課程科目、司書課程科目については第6、7時限に開講される場合があります。各時限の時間帯は以下のとおりです。

第1時限	第2時限	第3時限	第4時限	第5時限
9:00～10:30	10:40～12:10	13:10～14:40	14:50～16:20	16:30～18:00

第6時限	第7時限
18:10～19:40	19:50～21:20

3. 教育課程

* 学年制

本学では学年制を採用しています。本学の修業年限は4年とします。4年を超えて在学することはできませんが、8年を超えて在学することはできません。学年制では、「第1学年」「第2学年」「第3学年」「第4学年」しか存在しません。在学年数が直ちに当該「学年」を意味するわけではありません。したがって、たとえば、在学年数が5年であっても第3学年生ということがあります。

* 科目

総合社会学部の教育課程では、「共通教養科目」「外国語科目」と「学部共通コア科目」により本学部教育の土台を形成する科目を置き、その土台の上に連続して「専門科目」を専攻別に、基礎から発展へと編成することにより教育課程の体系性を確保しています。

* 必修科目・選択科目

「共通教養科目」「外国語科目」「学部共通コア科目」「専門科目」は、以下の科目区分に分類しています。

「必修科目」: 卒業要件として修得を必要としている科目

「選択科目」: 学年の履修目的に応じて選択し、修得単位を卒業要件に算入する科目

4. 単位制、キャップ (CAP) 制、グレード・ポイント・アベレージ (GPA) 制度

* 単位の考え方

近畿大学では、**単位制**を採用しています。履修登録を行い、授業に出席し、試験その他の方法で成績の評価を受けて合格点を得た場合に、所定の単位が授与されます。単位の計算基準は、次のとおりとします。(科目の具体的な単位数は、カリキュラム表 (p.6 ~ p.11) を参照してください。)

- (1) 講義は、毎週1時限の授業を半期で2単位とする。
- (2) 実験、実習、実技および演習による科目は、毎週1時限の授業を半期で1単位または2単位とする。
- (3) 「卒業論文」「卒業制作」は8単位とする。

* キャップ (CAP) 制

前期・後期に履修登録できる単位の上限を設けているのが、キャップ制です。教員が教室で授業を行う時間以外に、学生が教室外で予習・復習を行う時間が必要です。そのために総合社会学部では以下の表に示すとおり履修登録できる単位の制限を設け、年間で前期24単位、後期24単位の、あわせて48単位を上限とします。ただし、教職課程・司書課程や下記の記載科目(※)は含みません。またその他、卒業所要単位に認められない科目は含みません。

学年	前期登録単位数	後期登録単位数
1	24	24
2	24	24
3	24	24
4	24	24

※キャップ制除外科目

①共通教養科目

「ボランティア実習」

②外国語科目

「海外語学研修 (英語)」「海外語学研修 (中国語)」「海外語学研修 (韓国語)」

③インターンシップ科目

「インターンシップⅠ」「インターンシップⅡ」「インターンシップⅢ」「インターンシップⅣ」

④教職科目

教職教育部が開講する「教職に関する科目」と「教科に関する科目」および「教科又は教職に関する科目」のすべて

⑤司書課程科目

司書課程科目のすべて

* グレード・ポイント・アベレージ (GPA) 制度

総合社会学部では、グレード・ポイント・アベレージ (GPA) 制度を成績評価の指標として取り入れています。ただし、進級要件や卒業要件には GPA 値を用いません。この GPA 制度は、進級・卒業のための履修計画を立て、卒業後の進路目標に近づくためにどのようなことを続けていけばよいのか、何が足りないのか、何が必要なのか、自分を見据えたとえで課題を見つけ活用することをねらいとしています。また、GPA 制度は、海外留学、海外の大学院進学、外資系企業への就職など海外でも幅広く通用する成績評価制度であり、海外の大学によっては、入学選考書類に GPA の記載を求めることがあります。本学部のこの制度は、成績評価を厳格化するために、あらかじめ「到達目標」や「評価基準」を設けて信頼性あるものにしています。

GPA 値は以下の式で算出される。ただし、GPA の小数第 2 位を四捨五入して、表記は小数第 1 位までとする。

$$\text{GPA} = \frac{\{(\text{修得科目の単位数}) \times (\text{修得科目の GP})\} \text{の総和}}{\text{総履修登録単位数}}$$

実点	100 点～ 90 点	89 点～ 80 点	79 点～ 70 点	69 点～ 60 点	59 点以下	不受験
成績評価	優	優	良	可	不可	不受験
GP (グレード・ポイント)	4	3	2	1	0	0

† 実点は、当該科目の点数を表す。

† GPA の計算式にキャップ制除外科目（前ページ参照）を含まない。

† GPA の計算式に履修取り下げ科目を含まない。

† 不可になった科目または不受験の科目を再履修して単位を修得した場合には、通算の GPA には再履修前の 0 点を含めない。ただし、学期ごとに算出される GPA には 0 点も算入される。

* グレード・ポイント・アベレージ (GPA) 制度に基づいた履修取り下げ

GPA 制度では成績評価がなされたもの（不受験を含む）はすべてアベレージに算入されるため、GPA の値に影響します。そのため履修登録後、総合社会学部で定めた期間に、学生本人からの申し出があった科目に関してのみ履修の取り下げを認めています。ただし、履修科目の変更や追加は認められません。詳しい手続き方法は、別途掲示します。

5. 進級および卒業に関わる要件・カリキュラム表

* 進級要件

次学年に進級するためには、各専攻で定めた進級要件を満たしている必要があります。この要件を満たさない場合は、留年となります。

学年	修 得 単 位
1 → 2	第 1 学年において共通教養科目、外国語科目、学部共通コア科目、専門科目の中から合計 22 単位以上を修得すること。
2 → 3	第 1 学年から第 2 学年を通じて共通教養科目、外国語科目、学部共通コア科目、専門科目の中から合計 58 単位以上を修得すること。 ただし、心理系専攻では、必修科目：「心理学概論 A」「心理学概論 B」「心理学研究法」の合計 6 単位を含むこと。
3 → 4	第 1 学年から第 3 学年を通じて共通教養科目（20 単位以上）、外国語科目（14 単位以上）、学部共通コア科目（8 単位以上）、専門科目の中から合計 94 単位以上を修得すること。

*** コース選択（社会・マスメディア系専攻、環境系専攻）**

社会・マスメディア系専攻と環境系専攻では、コースの定員を考慮して第2学年進級時にコース分けを行います。

- ・社会・マスメディア系専攻は、「現代社会コース」、「マスメディアコース」
- ・環境系専攻は、「地球環境コース」、「都市・まちづくりコース」

コース分けの方法は、各専攻で行う説明会にて説明します。説明会の日時の案内は、「総合社会学部掲示板」に掲示します。

*** 卒業要件**

総合社会学部を卒業するためには、4年間以上在学し（ただし、各学年1年以上在学すること）、共通教養科目、外国語科目、学部共通コア科目および専門科目について次の単位数を修得しなければなりません。

科目	科目群	単位数
全学共通科目	共通教養科目	24 単位以上
	外国語科目	18 単位以上
専門科目	学部共通コア科目	12 単位以上
	その他の専門科目	72 単位以上
合計		126 単位以上

全学共通科目：共通教養科目

科目	科目群		科目名	単位数	合計
共通教養科目	人間性・社会性科目群から			10 単位以上	24 単位 以上
	地域性・国際性科目群から			6 単位以上	
	課題設定・問題解決科目群から	必修科目	基礎ゼミ	2 単位	
		選択科目		4 単位以上	
	スポーツ・表現活動科目群から			2 単位以上	

全学共通科目：外国語科目（英語専修・中国語専修・韓国語専修・外国語標準のいずれか一つ）

外国語科目		科目名	単位数	合計
(共通) 英語 基幹科目	必修科目	英語演習 1	2 単位	18 単位 以上
		英語演習 2	2 単位	
		オーラルイングリッシュ 1	2 単位	
		オーラルイングリッシュ 2	2 単位	
英語専修履修 ※	英語 基幹科目と発展科目から		10 単位以上	
中国語専修履修 ※	中国語 基幹科目と発展科目から			
韓国語専修履修 ※	韓国語 基幹科目と発展科目から			
外国語標準履修 ※	第一外国語と第二外国語 基幹科目と発展科目から			

※外国語科目の履修については、第1学年後期に履修指導します。

専門科目（学部共通コア科目）

学部共通コア科目	科目区分		科目名	単位数	合計
	必修科目		専門基礎演習	2 単位	12 単位 以上
	選択科目			10 単位以上	

専門科目（専攻別）

	科目区分		科目名	単位数	合計
	社会・ マスメディア系	専攻共通科目	必修科目	※カリキュラム表参照	
選択科目				14 単位以上	
専門発展科目		所属コースから		20 単位以上	
専攻共通科目、専門発展科目、インターンシップ科目、他専攻科目（○）・他コース科目（△）を含む			22 単位以上		
心理系	専門基礎科目	必修科目	※カリキュラム表参照	8 単位	72 単位 以上
		選択科目		10 単位以上	
	専門発展科目	必修科目	※カリキュラム表参照	16 単位	
		選択科目		28 単位以上	
専門基礎科目、専門発展科目、インターンシップ科目、他専攻科目（○、□）を含む			10 単位以上		
環境系	専攻共通科目	必修科目	※カリキュラム表参照	18 単位	72 単位 以上
		選択科目		12 単位以上	
	専門発展科目	所属コースから		20 単位以上	
	専攻共通科目、専門発展科目、インターンシップ科目、他専攻科目・他コース科目（○）を含む			22 単位以上	

※○、△、□印はカリキュラム表（P6～P11）に記載されています。

専門科目（専攻別）表の説明

(1) 社会・マスメディア系専攻

専攻共通科目、専門発展科目、インターンシップ科目および他専攻科目をあわせ、72 単位以上を修得しなければなりません。ただし、専攻共通科目から必修科目を含め 30 単位以上、専門発展科目は所属コースから 20 単位以上を修得しなければなりません。

(2) 心理系専攻

専門基礎科目、専門発展科目、インターンシップ科目および他専攻科目をあわせ、72 単位以上を修得しなければなりません。ただし、専門基礎科目から必修科目を含め 18 単位以上、専門発展科目から必修科目を含め 44 単位以上を修得しなければなりません。

(3) 環境系専攻

専攻共通科目、専門発展科目、インターンシップ科目および他専攻科目をあわせ、72 単位以上を修得しなければなりません。ただし、専攻共通科目から必修科目を含め 30 単位以上、専門発展科目は所属コースから 20 単位以上を修得しなければなりません。

*カリキュラム表

※必修と記載のないものは選択科目

科目区分		授業科目の名称	単位数	必修・ 選択	配当年次	卒業要件	
全学 共通科目	共通教養科目	人間性・ 社会性科目群	いのちの尊厳	2		1	10 単位以上
			ボランティア論	2		1	
			ボランティア実習	2		1	
			人権と社会1	2		1	
人権と社会2	2			1			
暮らしのなかの憲法	2			1			
哲学と人間・社会	2			1			
住みよい社会と福祉	2			1			
芸術と社会	2			1			
情報と倫理	2			1			
自校学習	2			1			
社会学概論	2			1			
法学概論	2			1			
		地域性・ 国際性科目群	国際化と異文化理解	2		1	6 単位以上
			ことばと文化	2		1	
			平和学	2		1	
			世界の貧困と格差	2		1	
			グローバル化と経済	2		1	
			アジアと日本	2		1	
			時事教養Ⅰ	2		1	
			時事教養Ⅱ	2		2	
		課題設定・ 問題解決 科目群	基礎ゼミ	2	必修	1	必修科目 2 単位を含め 6 単位 以上
			日本語表現法入門	2		1	
			思考の技術	2		1	
			情報処理	2		1	
			基礎数学	2		1	
			キャリアデザインⅠ	2		1	
		キャリアデザインⅡ	2		2		
		スポーツ・ 表現活動 科目群	生涯スポーツ1	1		1	2 単位以上
			生涯スポーツ2	1		1	
			健康とスポーツの科学	2		1	
			食生活と健康	2		1	

全学 共通科目	第一外国語	基幹科目	英語演習1	2	必修	1	必修科目 8 単位を 含め、 「基幹科目」 「発展科目」 から 18 単位以上	
			英語演習2	2	必修	1		
			英語演習3	1		2		
			英語演習4	1		2		
			オーラルイングリッシュ1	2	必修	1		
			オーラルイングリッシュ2	2	必修	1		
			オーラルイングリッシュ3	1		2		
			オーラルイングリッシュ4	1		2		
			英語 発展科目	リーディング・アンド・ディスカッション1	1			3
		リーディング・アンド・ディスカッション2		1		3		
		ライティング・アンド・プレゼンテーション1		1		3		
		ライティング・アンド・プレゼンテーション2		1		3		
		イングリッシュスペシャルスタディーズ1		1		2		
		イングリッシュスペシャルスタディーズ2		1		2		
		イングリッシュスペシャルスタディーズ3		1		3		
		イングリッシュスペシャルスタディーズ4		1		3		
		資格英語1		1		2		
		資格英語2		1		2		
		資格英語3		1		3		
		資格英語4		1		3		
		アカデミックイングリッシュスキルズ1		1		1		
		アカデミックイングリッシュスキルズ2		1		1		
		アカデミックイングリッシュスキルズ3		1		2		
アカデミックイングリッシュスキルズ4	1		2					
海外語学研修(英語)	1		1					

科目区分		授業科目の名称	単位数	必修・ 選択	配当年次	卒業要件	
全学共通科目	第一外国語	中国語 基幹科目	中国語総合1	1		2	必修科目8単位を 含め、 「基幹科目」 「発展科目」 から 18単位以上
			中国語総合2	1		2	
			中国語演習1	1		2	
			中国語演習2	1		2	
			中国語総合3	1		3	
			中国語総合4	1		3	
			中国語コミュニケーション1	1		2	
			中国語コミュニケーション2	1		2	
			中国語コミュニケーション3	1		3	
			中国語コミュニケーション4	1		3	
		発展科目	中国語カルチャーセミナー1	1		3	
			中国語カルチャーセミナー2	1		3	
			海外語学研修(中国語)	1		1	
		韓国語	基幹科目	韓国語総合1	1		
	韓国語総合2			1		2	
	韓国語演習1			1		2	
	韓国語演習2			1		2	
	韓国語総合3			1		3	
	韓国語総合4			1		3	
	韓国語コミュニケーション1			1		2	
	韓国語コミュニケーション2			1		2	
	韓国語コミュニケーション3			1		3	
	韓国語コミュニケーション4			1		3	
	発展科目		韓国語カルチャーセミナー1	1		3	
			韓国語カルチャーセミナー2	1		3	
			海外語学研修(韓国語)	1		1	
	ドイツ語	基幹科目	ドイツ語総合1	1		2	
			ドイツ語総合2	1		2	
			ドイツ語総合3	1		3	
ドイツ語総合4			1		3		
ドイツ語コミュニケーション1			1		2		
ドイツ語コミュニケーション2			1		2		
発展科目		ドイツ語カルチャーセミナー1	1		3		
		ドイツ語カルチャーセミナー2	1		3		
フランス語	基幹科目	フランス語総合1	1		2		
		フランス語総合2	1		2		
		フランス語総合3	1		3		
		フランス語総合4	1		3		
		フランス語コミュニケーション1	1		2		
		フランス語コミュニケーション2	1		2		
	発展科目	フランス語カルチャーセミナー1	1		3		
		フランス語カルチャーセミナー2	1		3		

科目区分		他専攻 科目	授業科目の名称	単位数	必修・ 選択	配当年次	卒業要件
専門科目	学部共通コア科目		専門基礎演習	2	必修	1	必修科目 2 単位を含め 12 単位以上
			21 世紀の社会科学	2		1	
			21 世紀の自然科学	2		1	
			ネットと社会変化	2		1	
			グローバル化とメディア	2		1	
			こころと健康	2		1	
			こころの科学	2		1	
			変化する地球環境	2		1	
			市民社会と新たな公共	2		1	

専門科目 (社会・マスメディア系専攻)	専攻共通科目	○	社会学理論 A	2		1	専攻共通科目、 専門発展科目、 インターンシップ科目 の卒業要件については、 「専門科目(専攻別)」 表で確認のこと	
		○	社会学理論 B	2		1		
			社会調査法 A	2		1		
			社会調査法 B	2		1		
			統計学 A	2		1		
			統計学 B	2		1		
		○	情報社会学	2		1		
		○	国際社会学	2		1		
		○	社会学史	2		1		
		○	現場からの放送論	2		1		
		○	現場からの新聞論	2		1		
			日本語文章力養成講座 I A	2		1		
			日本語文章力養成講座 I B	2		1		
			時事教養力養成講座 I A	2		1		
			時事教養力養成講座 I B	2		1		
			量的解析法	2		2		
			質的分析法	2		2		
			社会調査実習 A	1		3		
			社会調査実習 B	1		3		
			基礎講読(鑑賞) A	2	必修	2		
			基礎講読(鑑賞) B	2	必修	2		
			演習 I A	1	必修	3		
			演習 I B	1	必修	3		
			演習 II A	1	必修	4		
		演習 II B	1	必修	4			
		卒業論文・卒業制作	8	必修	4			
		現代社会コース 専門発展科目	○	経済社会学 A	2			2
			○	経済社会学 B	2			2
			○	現代社会論 A	2			2
			○	現代社会論 B	2			2
			○	現代社会論 C	2			2
			○	現代社会論 D	2			2
			○	コミュニケーション論 A	2			2
	○		コミュニケーション論 B	2		2		
	○		現代文化論 A	2		2		
	○	現代文化論 B	2		2			
	○	国際地域論 A	2		2			
	○	国際地域論 B	2		2			
	○	国際経済論 A	2		2			
	○	国際経済論 B	2		2			
	○	ネットワーク論 A	2		2			
	○	ネットワーク論 B	2		2			
	○	NPO/NGO論	2		2			
	○	国際関係史	2		2			
	○	国際法	2		2			
	○	コミュニティ開発論	2		2			
	○	文化人類学	2		2			
	○	多文化共生論	2		2			
	○	情報と社会	2		2			

科目区分		他専攻 科目	授業科目の名称	単位数	必修・ 選択	配当年次	卒業要件
専門科目（社会・マスメディア系専攻）	マスメディアコース	専門 発展科目	○ 映像活字メディア論A	2		2	専攻共通科目、 専門発展科目、 インターンシップ科目 の卒業要件については、 「専門科目（専攻別）」 表で確認のこと
			○ 映像活字メディア論B	2		2	
			○ 映像活字メディア論C	2		2	
			○ 出版論	2		2	
			○ 広告論	2		2	
			○ メディアの法と倫理	2		2	
			○ 犯罪社会学	2		2	
			○ 広報論	2		2	
			○ 文章映像表現論A	2		2	
			○ 文章映像表現論B	2		2	
			○ 文章映像表現論C	2		2	
			○ 文章映像表現論D	2		2	
			○ エンターテイメント論	2		2	
			○ Introduction to Journalism	2		2	
			○ Practice in Journalism	2		2	
			△ 映像制作演習	2		2	
			△ 新聞制作演習	2		2	
			△ 時事教養力養成講座ⅡA	2		2	
			△ 時事教養力養成講座ⅡB	2		2	
			△ 時事教養力養成講座ⅢA	2		3	
			△ 時事教養力養成講座ⅢB	2		3	
			△ 時事教養力養成講座ⅣA	2		4	
			△ 時事教養力養成講座ⅣB	2		4	
			△ 日本語文章力養成講座ⅡA	2		2	
			△ 日本語文章力養成講座ⅡB	2		2	
	△ 日本語文章力養成講座ⅢA	2		3			
	△ 日本語文章力養成講座ⅢB	2		3			
	△ 日本語文章力養成講座ⅣA	2		4			
	△ 日本語文章力養成講座ⅣB	2		4			
インターン シップ科目			インターンシップⅠ	2		1	
			インターンシップⅡ	2		1	
			インターンシップⅢ	2		1	
			インターンシップⅣ	2		1	

科目区分	他専攻 科目	授業科目の名称	単位数	必修・ 選択	配当年次	卒業要件
専門科目 (心理系専攻)	専門基礎科目	心理学概論A	2	必修	1	専門基礎科目、 専門発展科目、 インターンシップ科目 の卒業要件については、 「専門科目(専攻別)」 表で確認のこと
		心理学概論B	2	必修	1	
		心理統計A	2	必修	1	
		心理統計B	2		2	
		心理学研究法	2	必修	1	
		心理学史	2		1	
		心理学実験A	2		2	
		心理学実験B	2		2	
		心理測定法	2		2	
		心理調査法	2		2	
		カウンセリング論	2		2	
		心理面接技法	2		2	
		心理アセスメント	2		3	
	カウンセリング実習	2		3		
	○	産業カウンセリング	2		2	
	○	キャリアカウンセリング	2		2	
	○	学習行動論A	2		2	
	○	学習行動論B	2		2	
	○	生理心理学A	2		2	
	○	生理心理学B	2		2	
	○	認知心理学A	2		2	
	○	認知心理学B	2		2	
	○	知覚心理学A	2		2	
	○	知覚心理学B	2		2	
	○	産業心理学A	2		2	
	○	産業心理学B	2		2	
	○	比較行動学A	2		2	
	○	比較行動学B	2		2	
	○	感情心理学A	2		2	
	○	感情心理学B	2		2	
	○	性格心理学A	2		2	
	○	性格心理学B	2		2	
	○	社会心理学A	2		2	
○	社会心理学B	2		2		
○	集団心理学A	2		2		
○	集団心理学B	2		2		
○	家族心理学A	2		2		
○	家族心理学B	2		2		
○	行動発達学A	2		2		
○	行動発達学B	2		2		
○	臨床心理学A	2		2		
○	臨床心理学B	2		2		
○	学校心理学A	2		2		
○	学校心理学B	2		2		
○	健康心理学A	2		2		
○	健康心理学B	2		2		
○	犯罪心理学A	2		2		
○	犯罪心理学B	2		2		
	心理学講読A	2	必修	2		
	心理学講読B	2	必修	3		
	演習ⅠA	1	必修	3		
	演習ⅠB	1	必修	3		
	演習ⅡA	1	必修	4		
	演習ⅡB	1	必修	4		
	卒業論文	8	必修	4		
インターン シップ科目		インターンシップⅠ	2		2	
		インターンシップⅡ	2		3	
		インターンシップⅢ	2		3	

科目区分	他専攻 科目	授業科目の名称	単位数	必修・ 選択	配当年次	卒業要件	
専門科目（環境系専攻）	専攻共通科目	環境学概論A	2	必修 必修	1	専攻共通科目、 専門発展科目、 インターンシップ科目 の卒業要件については、 「専門科目（専攻別）」 表で確認のこと	
		環境学概論B	2		1		
		○ 自然環境理解	2		1		
		○ 社会環境理解	2		1		
		○ 環境基礎数学	2		1		
		○ 環境基礎物理学	2		1		
		○ 環境問題の歴史	2		1		
		○ 環境倫理学	2		1		
		○ グローバル化と地域・生活	2		1		
		○ 環境社会学	2		1		
		○ 人文地理学	2		1		
		○ 自然地理学	2		1		
		○ 生態学	2		1		
		○ 宇宙地球進化論	2		1		
		○ ポスト近代社会論	2		1		
		○ 環境政策学	2		2		
		○ 環境経済学	2		2		
		○ 持続可能社会論	2		2		
		○ 流れと拡散の科学	2		2		
		○ 熱の科学	2		2		
		○ 波動の科学	2		2		
		□ 社会調査論	2		3		
		□ 社会調査法	2		3		
		□ データ分析法	2		3		
		□ 社会統計学	2		3		
		□ 多変量解析法	2		3		
		□ 質的調査法	2		3		
		□ 社会調査実習	2		3		
	演習A	2	必修 2				
	演習B	2	必修 2				
	卒業研究ゼミナールA	1	必修 3				
	卒業研究ゼミナールB	1	必修 3				
	卒業論文	8	必修 4				
	地球環境コース	（専門発展科目 （環境政策分野）	○ 環境ライフスタイル論	2			2
			○ 資源エネルギー論	2			2
			○ 国際開発協力論	2			2
			○ 環境マネジメント	2			3
			○ 環境教育論	2			3
			○ 環境民俗学	2			3
			○ 世界遺産の保全	2			3
			○ 環境法	2			3
			○ 環境リスク論	2			3
		○ 食糧と環境	2		3		
		（専門発展科目 （環境情報分野）	○ 環境情報処理の基礎	2			2
			○ 地球環境学	2			3
			○ 環境統計学	2			3
			○ 意思決定支援技法	2			3
			○ 複雑系の科学	2			3
○ 空間情報処理論			2		3		
○ 環境アセスメント			2		3		
○ プログラミング演習A			2		2		
○ プログラミング演習B	2			2			
○ 環境情報演習	2		3				
都市・まちづくりコース	専門発展科目	○ 都市計画史	2		2		
		○ 市民参加論	2		2		
		○ 環境心理・行動学	2		2		
		○ 環境デザイン	2		2		
		○ 福祉環境論	2		2		
		○ まちづくり論	2		3		
		○ 都市計画論	2		3		
		○ 市民組織論	2		3		
		○ 環境防災論	2		3		
		○ 合意形成手法	2		3		
		○ 社会起業論	2		3		
		○ 都市社会学	2		3		
○ 都市文化・観光学	2		3				
○ 環境建築論	2		3				
インターン シップ科目		インターンシップⅠ	2		1		
		インターンシップⅡ	2		2		
		インターンシップⅢ	2		2		

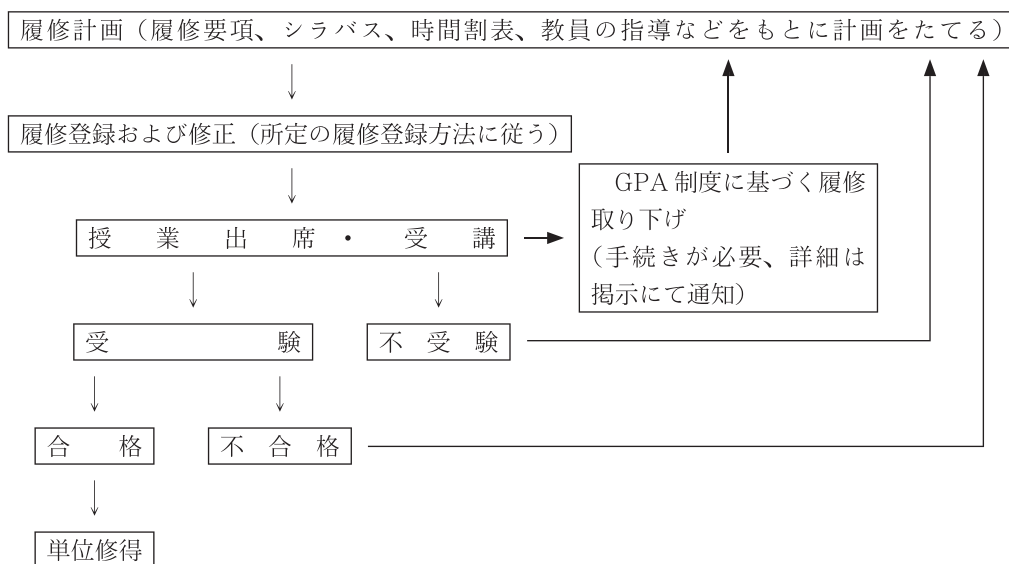
6. 科目の履修

* 学年配当制

大学の授業は、科目を履修して合格すれば、所定の単位が与えられるという単位制に基づいています。したがって、単位は科目の履修の基準になるものです。また、すべての科目は、学年配当制に基づいて授業が行われます。学年配当制では、当該科目の配当学年より上級の学年生はその科目を履修できますが、下級の学年生は履修できないことになります。たとえば、第2学年に配当されている科目について、1年生はこれを履修できませんが2・3・4年生は履修できることになります。

* 履修登録と履修計画

科目を履修するには、あらかじめ履修登録することが必要です。履修登録は、毎年度、4月に設定される履修登録期間に所定の方法によって、その年度の前期分の授業と後期分の授業を一括して行います。また、後期分の授業については、9月に設定される履修登録修正期間に変更できる場合があります。履修登録期間および方法等の詳細については、別途ガイダンス等を通じて説明します。



* 通常履修・再履修

科目の履修は、当該年度に配当された科目を履修する通常履修と、単位を修得できなかった科目を再び履修する再履修とに分けられます。再履修は、正規の履修の過程を経て合格しなかった科目について、再び履修することをいいます。不合格科目については、卒業資格単位数が不足している場合を除いて、再び履修する必要はありません。ただし、必修科目は再履修する必要があります。すでに単位を修得した科目を再び履修することはできません。

7. 試験区分

試験には、「定期試験（前期試験、後期試験）」、「臨時試験」、「追試験」および「再試験」があります。

* 定期試験

定期試験とは、前期終了科目については前期末に、後期終了科目については後期末に、履修登録済みの科目について実施する試験のことをいいます。

* 臨時試験

臨時試験とは、科目の担当者が学期の途中に必要なに応じて行う試験のことをいいます。

* 追試験

追試験とは、定期試験を受験する資格があるにもかかわらず、病気や不慮の事故などの正当な理由により定期試験を受験することができなかった科目について行う試験のことをいいます。受験するには診断書等の証明書が必要になります。

* 再試験

再試験とは、第4学年に在学し、当該年度で卒業所要単位数に達せず、その不足単位数が共通教養科目・外国語科目・学部共通コア科目・専門科目を含めて3科目かつ6単位以内の者で、当該年度において不足当該科目の履修登録をして定期試験または追試験を受験し、不合格となった者に行う試験のことをいいます（ただし、不受験は対象となりません）。受験するには、再試験願を事務部に提出しなければなりません。

ただし、卒業論文、卒業制作、実験、実習、実技、演習科目等の単位および出席日数が不足している場合には対象となりません。

8. 受験の心得

試験を受けるに際しては、下記の注意事項を熟読のうえ、十分に準備をしたうえで厳正な態度で臨んでください。

* 試験

試験開始のおよそ一週間前に試験時間割表を「総合社会学部掲示板」に掲示します。試験の時間帯は、授業時間帯と異なりますので、注意してください。

(試験の時間割) 定期試験時間は、1時限60分としています。

第1時限	第2時限	第3時限	第4時限	第5時限
9:30～10:30	11:00～12:00	13:30～14:30	15:00～16:00	16:30～17:30
第6時限	第7時限			
18:30～19:30	20:00～21:00			

※試験に20分以上遅刻した場合は、受験資格は認められません。また試験開始後、45分経過しなければ退室できません。

* 受験資格

- (1) 学生証を所持しない学生には、受験資格は認められません。試験中は、学生証を試験監督の見やすいところに提示しておかなければなりません。万一、学生証を忘れたときは、総合社会学部事務部または学生部学生課（本館1階）で「仮学生証（試験用）」の貸出し（手数料がかかります）を受けてから受験してください。
- (2) 学費その他の納付金の未納者には、受験資格は認められません。それらを未納のまま受験しても成績評価は無効となります。

* 不正行為等

試験での不正行為は絶対に許されません。不正行為があった場合には、学則等により処分されます。

9. 成績評価、成績通知、成績照会、学長賞・学部長賞

* 成績評価

授業科目の単位修得の可否は、次のように判定されます。100点満点で、60点以上が「合格」となり、59点以下は「不合格」となります。成績の評価は、追試験を含めて次のように表示されます。

優（100点～80点）、良（79点～70点）、可（69点～60点）、不可（59点以下）

再試験での成績評価は、60点が最高点です。

なお、授業科目によっては単に「合格」または「不可」という表示で評価する場合があります。履修登録をし

ていて、定期試験等の未受験やレポート未提出などシラバスに記載している成績評価基準に達していなかった場合等は、成績評価が「不受験」と成績通知書に記載される場合があります。

ただし、成績証明書には、不合格になった科目の成績評価は記載されません。成績証明書に記載するのは「優・良・可・合格・認定」のみです。

* 成績通知

成績通知書には、実点で表示されます。成績通知書を前期（9月1週目予定）と後期（3月下旬予定）に保護者宛に郵送します。ただし、第4学年の後期試験後の成績通知書配布は、別途掲示でお知らせします。

* 成績照会

試験を受験したにもかかわらず不受験扱いになっている等、成績評価について疑問があるときは、総合社会学部事務部を通じ、担当教員に対して文書で説明を求めることができます。手続きの詳細については、郵送する成績通知書に同封します。

* 学長賞・学部長賞

学則の定めるところにより、在学中の学業成績が優秀であり、他の学生の模範となる学生に対し、学長賞、学部長賞などが卒業式で授与されます。また、課外活動・クラブ活動などで顕著な成績や功績を挙げた学生は、特別に表彰されます。

10. 特待生制度

- (1) 第4学年を除く、各在学年次において、次の条件を満たす学生は、次年度（次学年）の授業料および教育充実費の半額を免除します。

成績上位であること：

2年次進級時 36 単位以上を修得し、前年度の平均点が 85 点以上

3年次進級時 72 単位以上を修得し、前年度の平均点が 85 点以上

4年次進級時 108 単位以上を修得し、前年度の平均点が 85 点以上

- (2) 免除対象学生の採用人数は、各年次において、次のとおりとします。

社会・マスメディア系専攻 4 名以内

心理系専攻 2 名以内

環境系専攻 2 名以内

- (3) 該当学生については、成績通知書郵送時に保護者宛に通知します。

11. 掲示、休講、補講、欠席

* 掲示

学生への通知は、主に〔掲示〕によって行いますので、掲示板を頻繁に見るように心掛けてください。都合により長期にわたり登校できないような事情が生じた場合は、大学での友人等を通じて掲示内容を知るように努めてください。掲示板を見ないことによって思わぬ不利益を招くことがありますので、くれぐれも注意してください。

掲示板設置場所

総合社会学部に関するもの・・・G 館 1 階 総合社会学部掲示板

* 気象警報および交通機関のストライキなどによる休講措置

- (1) 気象警報による休講

暴風警報が大阪府（下表のいずれかの地域）に発表された場合、(3)のとおり休講措置を行います。また、授業時間中に暴風警報が発表されたときは、授業を中止して休講とします。

大阪府	大阪市	大阪市
	北大阪	豊中市、池田市、吹田市、高槻市、茨木市、箕面市、摂津市、島本町、豊能町、能勢町
	東部大阪	守口市、枚方市、八尾市、寝屋川市、大東市、柏原市、門真市、東大阪市、四条畷市、交野市
	南河内	富田林市、河内長野市、松原市、羽曳野市、藤井寺市、大阪狭山市、太子町、河南町、千早赤阪村
	泉州	堺市、岸和田市、泉大津市、貝塚市、泉佐野市、和泉市、高石市、泉南市、阪南市、忠岡町、熊取町、田尻町、岬町

(2) 交通機関のストライキによる休講

次のいずれかに該当する場合、(3)のとおり休講措置を行います。

①近畿日本鉄道が運行停止となったとき。

②J R西日本「大阪環状線」および大阪市営地下鉄が同時に運行停止となったとき。

(3) 気象警報および交通機関のストライキによる休講は、暴風警報が解除またはストライキが終了した時刻により以下のとおりです。

①午前6時まで解除・終了されたときは、平常どおり授業を行います。

②午前10時まで解除・終了されたときは、3時限目から授業を行います。

③午後1時まで解除・終了されたときは、6時限目から授業を行います。

④午後1時を過ぎても解除・終了されないときは、全時限休講とします。

(4) 上記以外に、特別な状況に応じて、授業を短縮または休講とすることがあります。

*** 補講**

補講は、休講があった科目について、本来の時間割とは異なる日程で調整し実施されます。日程や教室については、「総合社会学部掲示板」にてお知らせします。日程・教室等に変更になる場合がありますので、随時確認してください。

*** 欠席**

病気・ケガ等で欠席した場合は、欠席届の用紙（所定の様式）に欠席理由を証明する書類を添えて、総合社会学部事務部で手続きし、各自で授業科目担当教員に提出してください。

病気等・・・病院等の診断書

忌引き（三親等以内）・・・会葬礼状

なお、教育実習および介護等体験による欠席届は学務部で、課外活動（試合参加等）の場合は学生部で手続きし、各自で授業科目担当教員に提出してください。

*** 学校感染症**

インフルエンザなど学校感染症と診断された場合には、総合社会学部事務部への連絡や証明書の提出が必要になります。詳細については本学ホームページで確認してください。

12. 定期健康診断

年度初めに行われる定期健康診断は、必ず受けなければなりません。病気、その他やむを得ない理由により、定期健康診断を受けなかった者は、速やかに保健管理センター（11月ホール3階）に届け出て、指示を受けてください。また、毎年春期に行う健康診断の結果に基づき、就職用などの健康診断証明書を発行しますので、指定日には必ず健康診断を受けてください。

13. オフィスアワー、アセンブリーアワー、履修相談、授業評価アンケート

* オフィスアワー

学生からの授業内容等に関する質問や学生生活上の相談等に応じるための時間枠として、教員があらかじめ示した特定の時間帯のことで、その時間帯であれば、学生は基本的に予約なしで研究室を訪問し、質問や相談を行うことができます。

* アセンブリーアワー

アセンブリーアワーは、学内外の講師を招いての講演会や、就職ガイダンスなどを開催する時間帯です。総合社会学部の全学生がアセンブリーアワーの催しに出席できるように、アセンブリーアワーの時間帯には、授業科目を開講していません。アセンブリーアワーに開講している科目（例えば、教職課程科目など）を履修することはできません。

* 履修相談

単位修得や履修計画、あるいは履修登録の手順などに関する相談は、クラス担任もしくは、総合社会学部事務部に相談してください。また、資格関係等の相談は、その担当窓口へ行くことをすすめることもあります。

* 授業評価アンケート

教育の質の向上のため、学生による授業評価を行い、その結果をもとに教員が授業内容の改善に役立てることを目的に授業評価アンケートを実施しています。実施時期や方法については授業中もしくは掲示板でお知らせします。

14. インターンシップ、ボランティア活動

教室外の社会における活動（実習）はキャリア教育の重要な一環であり、また、倫理観や社会貢献の精神、公共性や社会参画の意識を身につける絶好の機会と考えられます。このような考えのもとに、総合社会学部では、学生自身がインターンシップおよびボランティア活動に積極的に参加できるようインターンシップ科目、ボランティア実習科目を用意し、「インターンシップ説明会」および「ボランティア実習説明会」を毎年春に実施します。

15. 資格関係

以下に代表的な取得可能な資格を列挙します。ただし、取得に必要な、または受験に必要な要件が変更される場合がありますので、当該事務部もしくは担当教員に確認してください。

* 教職課程

総合社会学部では、将来、教職をめざす学生のために、教職課程を用意しています。この課程は教育職員免許状（教員免許）を取得するのに必要なものです。4月上旬に実施される「教職課程履修ガイダンス」に出席し、所定の手続きを行わなければ教職課程は履修できません。詳しくはガイダンス時に配付される「教職課程履修要項」を参照してください。教職課程については主に学務部（10号館1階）にお問い合わせください。

取得できる免許状と教科の種類：高等学校教諭一種免許状・・・地理歴史・公民

中学校教諭一種免許状・・・社会

* 司書課程

「司書」は資料の収集・分類を行い、利用者に適切な資料を紹介・提供する専門職です。総合社会学部では通常カリキュラム以外に、司書課程の所定科目の単位を修得すれば、司書の資格を得ることができます。司書課程で学ぶ、情報に関する専門知識・技術は、現在あらゆる分野で重視されているものです。したがって、この課程を修了すれば、図書館のみならず幅広い職場での活躍が期待されます。

4月上旬に実施される「司書課程履修ガイダンス」に出席し、所定の手続きを行わなければ司書課程は履修できません。司書課程については、経営学部事務部短期大学部担当（21号館2階）にお問い合わせください。

*** 社会調査士**

「社会調査士」は、社会調査の知識や技術を用いて、世論や市場動向、社会事象等をとらえることのできる能力を有する「調査の専門家」のことで、将来、企業や自治体等の企画・調査を行う部署での活躍が期待されます。所定科目の12単位を修得し、「一般社団法人社会調査協会」に申請すると、卒業と同時に資格が与えられます。

社会・マスメディア系専攻

科目名	単位	配当学年
社会調査法 A	2	1
社会調査法 B	2	1
統計学 A	2	1
統計学 B	2	1
量的解析法	2	2
質的分析法		
社会調査実習 A	1	3
社会調査実習 B	1	3
合計	12	

環境系専攻／心理系専攻

科目名	単位	配当学年
社会調査論	2	3
社会調査法	2	3
データ分析法	2	3
社会統計学	2	3
多変量解析法	2	3
質的調査法		
社会調査実習	2	3
合計	12	

*** 産業カウンセラー受験資格 [対象：心理系専攻のみ]**

下表の科目より、合計10科目以上、20単位以上を修得することで受験資格が与えられます。ただし、D群からG群の科目については合計3科目、6単位までしか修得単位として認められません。

群	協会による指定科目群	本学部での開講科目名	単位
A	産業カウンセリング、カウンセリング、臨床心理学、心理療法各論（精神分析・行動療法など）など	産業カウンセリング	2
		カウンセリング論	2
		臨床心理学 A または臨床心理学 B	2
		学習行動論 B	2
B	カウンセリング演習、カウンセリング実習など	カウンセリング実習	2
C	人格心理学、心理アセスメント法など	性格心理学 A または性格心理学 B	2
		心理アセスメント	2
D	キャリア・カウンセリング、キャリア概論など	キャリアカウンセリング	2
E	産業心理学、産業・組織心理学、グループダイナミックス、人間関係論など	産業心理学 A	2
		集団心理学 A または集団心理学 B	2
F	労働法令	—	—
G	精神医学、精神保健、精神衛生、心身医学、ストレス学、職場のメンタルヘルスなど	—	—

上記科目は、基準に合うように設定していますが、受験資格の基準に合致するか否かの最終判断は、すべて「社団法人日本産業カウンセラー協会」の試験委員会の審査によって判定されます。受験資格の判定基準は、今後、変更の可能性があります。

詳しくは日本産業カウンセラー協会のHP (<http://www.counselor.or.jp>) を参照してください。

* 認定心理士 [対象：心理系専攻のみ]

分類	領域	科目名	認定用 単位	配当 学年	履修方法	単位数
基礎科目	a. 心理学概論	心理学概論 A (必修) 心理学概論 B (必修) 心理学史* ¹	2 2 1	1 1 1	2 科目以上	4 単位以上
	b. 心理学研究法	心理学研究法 (必修) 心理統計 A (必修) 心理統計 B 心理測定法 心理調査法 心理アセスメント	2 2 2 2 2 2	1 1 2 2 2 3	2 科目以上	4 単位以上
	c. 心理学実験・ 実習	心理学実験 A 心理学実験 B カウンセリング実習* ¹	2 2 1	2 2 3	2 科目以上	3 単位以上
小 計						12 単位以上
選択科目	d. 知覚心理学・ 学習心理学	知覚心理学 A 知覚心理学 B 認知心理学 A 認知心理学 B 学習行動論 A 学習行動論 B 感情心理学 A 感情心理学 B	2 2 2 2 2 2 2 2	2 2 2 2 2 2 2 2	d. ~ h. の 5 領域 のうち 3 領域以上 でそれぞれが少な くとも 4 単位以上	5 領域の合計が 16 単位以上
	e. 生理心理学・ 比較心理学	生理心理学 A 生理心理学 B 比較行動学 A 比較行動学 B	2 2 2 2	2 2 2 2		
	f. 教育心理学・ 発達心理学	行動発達学 A 行動発達学 B 学校心理学 A 学校心理学 B	2 2 2 2	2 2 2 2		
	g. 臨床心理学・ 人格心理学	臨床心理学 A 臨床心理学 B 性格心理学 A 性格心理学 B 健康心理学 A 健康心理学 B 犯罪心理学 A 犯罪心理学 B カウンセリング論 心理面接技法	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	2 2 2 2 2 2 2 2 2 3		
	h. 社会心理学・ 産業心理学	社会心理学 A 社会心理学 B 集団心理学 A 集団心理学 B 家族心理学 A 家族心理学 B 産業心理学 A 産業心理学 B	2 2 2 2 2 2 2 2	2 2 2 2 2 2 2 2		
小 計						16 単位以上
その他の 科目	i. 心理学関連科目 卒業論文・ 卒業研究	卒業論文 (必修)* ²	4	4		
		領域 a. ~ h. の複数の領域にかかわ る心理学関連科目				
総 計						36 単位以上

総合社会学科心理系専攻の学生が取得できる資格であり、所定科目の単位を修得し、卒業することが条件です。学校教育法により定められた大学、または大学院における心理学専攻、教育心理学専攻、または心理学関連専攻の学科において、別表に掲げる科目の単位を修得し、卒業または修了した者、および、それと同等以上の学力を有すると認められた者が対象です。

上記の条件を卒業見込みの学年度において満たしている者が申請することができます。

*1「心理学史」、「カウンセリング実習」は、卒業単位としては2単位ですが、認定のための単位としては1単位として計算されます。

*2「卒業論文」は卒業単位としては8単位ですが、認定のための単位としては4単位となります。

別表の科目は、基準に合うように設定していますが、基準に合致するか否かの最終判断は、すべて「社団法人日本心理学会資格認定委員会」の権限において行われますので、今後、変更の可能性があります。

詳しくは日本心理学会のHP (<http://www.psych.or.jp/>) を参照してください。

*** 環境マネジメント実務士 [対象：環境系専攻のみ]**

「環境マネジメント実務士」は、持続可能な社会の実現に向けて、広い視野を持って環境問題に取り組むことのできる人材のことです。下表に示す所定の必修科目（2科目4単位）、および選択科目（各群それぞれ2単位以上 計16単位以上）を合わせて20単位以上修得し、「一般財団法人全国大学実務教育協会」に申請すると、卒業と同時に資格が与えられます。

	科目名	単位
必修	環境学概論 B	2
	環境マネジメント	2
I 群	環境学概論 A	2
	変化する地球環境	2
	地球環境学	2
	自然地理学	2
	人文地理学	2
II 群	資源エネルギー論	2
	食料と環境	2
	環境ライフスタイル論	2
	環境リスク論	2
III 群	環境政策学	2
	環境法	2
	環境教育論	2
	環境経済学	2
IV 群	空間情報処理論	2
	環境情報演習	2
	社会調査論	2
	社会調査法	2
	社会調査実習	2

*** 上級環境マネジメント実務士 [対象：環境系専攻のみ]**

「上級環境マネジメント実務士」は、環境ビジネス企業や民間企業の環境マネジメント部門等で指導的に活動する環境スペシャリストの育成を目標としています。下表に示す所定の必修科目（4科目8単位）、および選択科目（各群それぞれ4単位以上 計32単位以上）を合わせて40単位以上修得し、「一般財団法人全国大学実務教育協会」に申請すると、卒業と同時に資格が与えられます。

	科目名	単位
必修	環境学概論 B	2
	持続可能社会論	2
	環境マネージメント	2
	環境アセスメント	2
I 群	環境学概論 A	2
	変化する地球環境	2
	地球環境学	2
	自然地理学	2
	生態学	2
	人文地理学	2
	環境民俗学	2
II 群	資源エネルギー論	2
	食料と環境	2
	環境デザイン	2
	環境ライフスタイル論	2
	環境リスク論	2
III 群	環境政策学	2
	環境法	2
	市民参加論	2
	市民組織論	2
	環境教育論	2
	環境経済学	2
IV 群	空間情報処理論	2
	環境情報演習	2
	環境統計学	2
	社会調査論	2
	社会調査法	2
	社会調査実習	2

*** GIS 学術士**

GIS（地理情報システム）の知識と技術の向上をはかり、適正な GIS 学術を普及し、もって地理情報科学および地理学の進歩と社会の発展に貢献することを目的に、「社団法人日本地理学会」が GIS 学術士の資格を認定しています。GIS 学術士の資格を取得するためには、下表の【A】、【B】、【C】、【D】に対応する科目の単位を修得しなければなりません。

領域	科目名	単位
【A】	情報処理	2
【B】	空間情報処理論	2
【C】	環境情報処理の基礎	2
	環境情報演習	2
【D】	卒業論文（心理系専攻・環境系専攻）	8
	卒業論文・卒業制作（社会・マスメディア系専攻）	
	総 計	16

※「卒業論文」または「卒業論文・卒業制作」の内容が GIS を利用した執筆であること。

※【C】は2科目を修得すること。

※各科目に関する成績は、良（70点）以上であること。

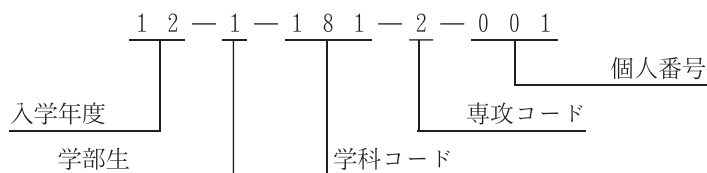
16. 海外留学・語学研修

毎年、国際交流室が計画している「海外留学制度」があり、交換・派遣・認定留学の三種類があります。休暇を利用した「語学研修」も募集しています。詳しくは、国際交流室（11号館1階）まで、問い合わせてください。

17. 学籍番号

学籍番号は学生証に記載される番号で、学生各人に与えられます。この番号（10桁）は近畿大学学生として登録されたことを表し、各種試験の受験および各種届出書類の作成等の場合に、学部・学科・学年・氏名とともに、この学籍番号を記入しなければなりません。

（例）



専攻コード

社会・マスメディア系専攻	0
心理系専攻	1
環境系専攻	2

18. 各種届出等

* 住所・氏名等変更届

本籍・氏名・現住所等の身上に変更があった場合には、速やかに届け出る必要があります。特に在学中の現住所については届出を正確にしないと、学修その他の連絡に不利となることがあるので注意してください。

* 休学・復学

- (1) 病気、その他やむを得ない事情で休学する場合は、学則の定めるところにより、総合社会学部事務部に願い出なければなりません。
- (2) 休学者が復学しようとするときは、学則の定めるところにより、総合社会学部事務部に願い出なければなりません。

* 除籍・復籍・処分

- (1) 学費を期限までに納入しない場合は、学則の定めるところにより除籍され、学生の身分を失うことになります。
- (2) 学費未納の理由で除籍された者が学籍の復帰を希望するときは、所定の期間内に手続きをした場合、審査の上復籍が許可されます。ただし、除籍の日から所定の期間を経過した場合は許可されません（詳細は総合社会学部事務部に照会してください）。
- (3) 処分は学則の定めるところにより行われます。

* 退学・再入学

- (1) 病気その他やむを得ない事情で退学する場合は、保証人連署で学生証を添付して総合社会学部事務部に届け出なければなりません（詳細は総合社会学部事務部に照会してください）。
- (2) 退学した者が再入学を希望する場合は、所定の期日までに出席し、その許可を受けなければなりません。

19. 転専攻・転学部試験

学科内の転専攻を希望する者で受験資格を満たす者は、年度末に実施される選考試験に出願し合格すれば転専攻が許可されます。ただし、募集は、希望する専攻の定員を勘案したうえ行いますので、定員状況によっては実施しない場合があります。詳しくは総合社会学部事務部に照会してください。

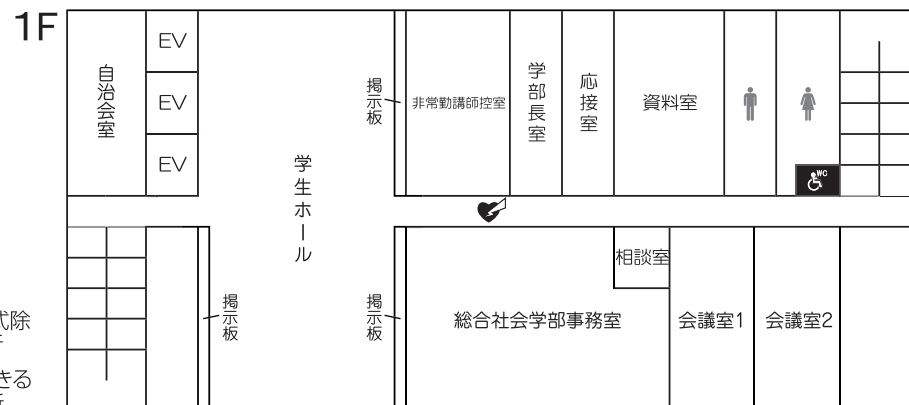
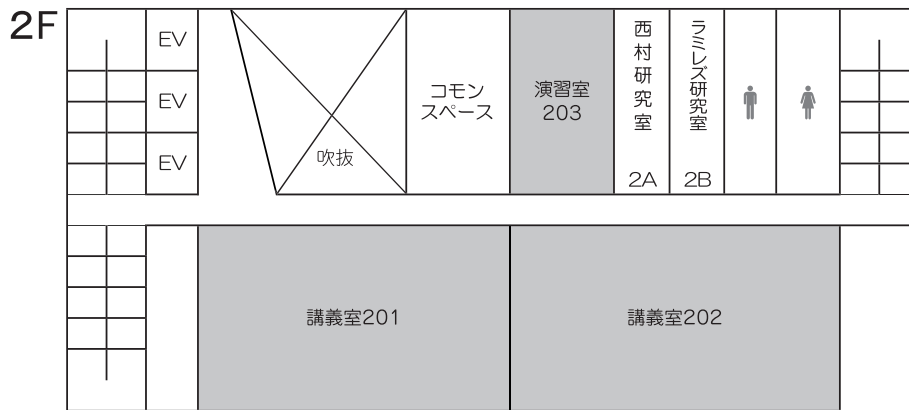
総合社会学部から他学部へ転学部を希望する者は、上記と同時期に転学部試験があります。詳しくは希望する学部の事務部に照会し、その指示に従ってください。

20. 転コース試験

転コースを希望する者で受験資格を満たす者は、「第2学年終了時」に選考を行いますので、所属する専攻の教務委員または総合社会学部事務部に相談してください。ただし、募集は、希望する専攻（コース）の定員を勘案したうえ行いますので、定員状況によっては実施しない場合があります。

校舎・講義室等の配置図

講義室等配置図 (G館)



心 = AED(自動体外式除細動器)設置場所

♿ = 車椅子で使用できるトイレの設置場所

8F

		EV	荒巻研究室 8A	西木研究室 8B	大谷研究室 8C	田中美研究室 8D	金井研究室 8E	秦研究室 8F	津島研究室 8G	藤田研究室 8H	内海研究室 8I			
		EV										♂	♀	
		EV												
			講義室 801		講義室 802		講義室 803		講義室 804		講義室 805		講義室 806	

7F

		EV	大対研究室 7A	須佐見研究室 7B	佐藤研究室 7C	中谷研究室 7D	遠藤研究室 7E	岸本研究室 7F	久研究室 7G	田中寛代研究室 7H	大野研究室 7I					
		EV										♂	♀			
		EV														
			面接室	心理学 準備室	心理学 実験室 1	心理学 実験室 2	心理学 実験室 3	心理学 実験室 4	実習室 701		実習室 702	実習室 703				
			観察室	心理学 実験室 5	心理学 実験室 6	心理学 実験室 7	心理学 実験室 8									



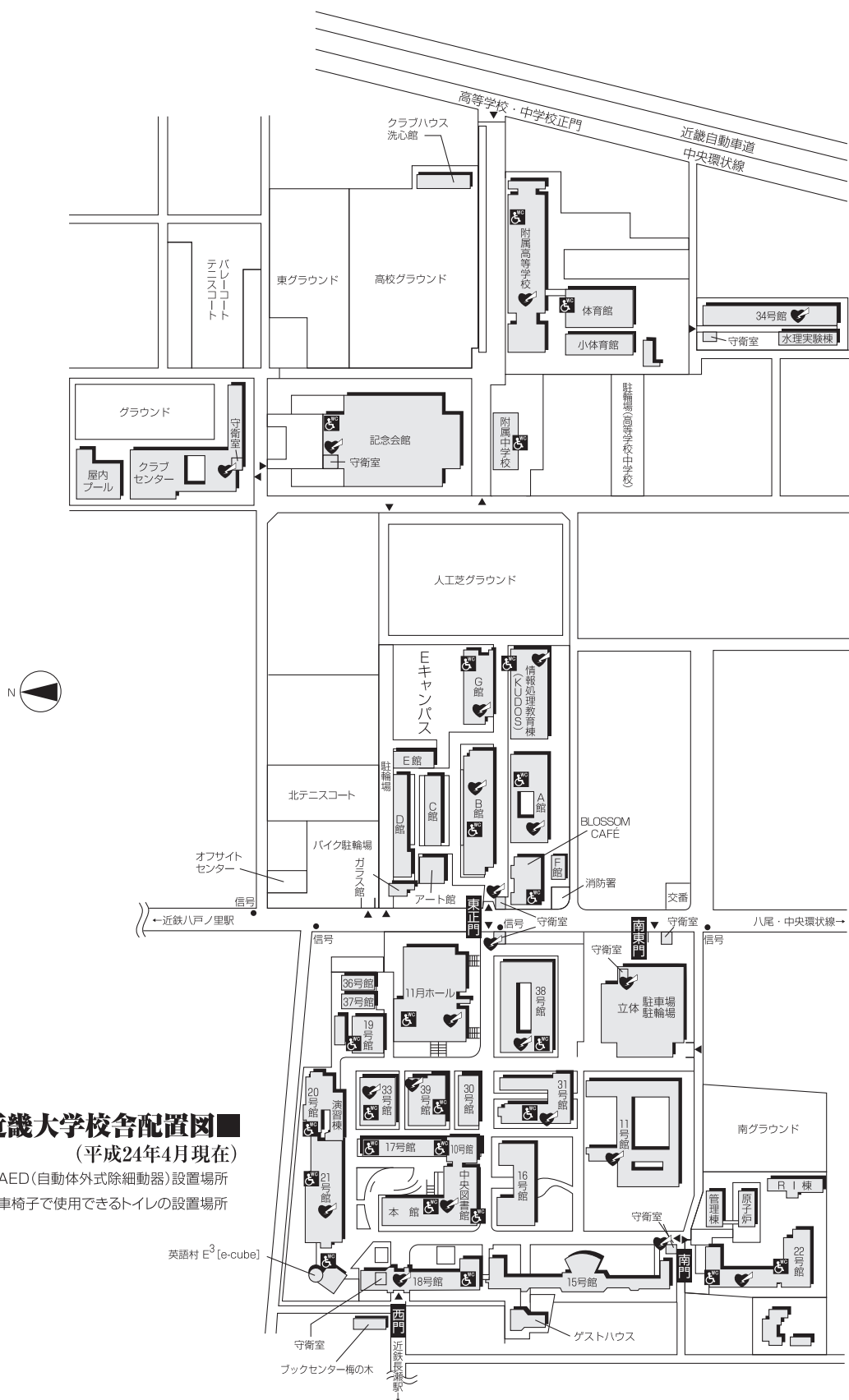
6F

		EV	清島研究室 6A	森川研究室 6B	堀田泉研究室 6C	前田研究室 6D	鈴木伸太郎研究室 6E	戸井田研究室 6F	堀田美保研究室 6G	塩崎研究室 6H	中川研究室 6I			
		EV										♂	♀	
		EV												
			講義室 601			講義室 602			講義室 603		講義室 604			

5F

		EV	八夕ノ研究室 5A	鈴木光祐研究室 5B	リソフイ力研究室 5C	奥野研究室 5D	直井研究室 5E	加藤研究室 5F	好並研究室 5G	須賀井研究室 5H	山取研究室 5I			
		EV										♂	♀	
		EV												
			講義室 501		講義室 502			講義室 503		講義室 504				

校舎配置図（全体）



近畿大学校舎配置図 (平成24年4月現在)

- = AED(自動体外式除細動器)設置場所
- = 車椅子で利用できるトイレの設置場所

学生生活を意義あるものとするため、この履修要項、学生生活ガイドブックを熟読してください。

発行者 近畿大学総合社会学部

発行日 平成 24 年 4 月 1 日

 近畿大学